

令和 3 年度

事業計画
一般会計予算



ハートちゃん



日本赤十字社 奈良県支部
Japanese Red Cross Society

— 目 次 —

I. 令和3年度 基本方針		1
II. 令和3年度年間活動予定		2
III. 令和3年度 事業計画		
1 災害救護体制の強化		4
2 赤十字講習の充実		9
3 青少年赤十字の育成		11
4 国際活動の推進		14
5 救護看護師の養成		14
6 血液事業の推進		15
7 赤十字ボランティアの育成		16
8 効果的な広報の展開		21
9 活動資金の募集及び表彰制度		23
10 奈良県支部有功会		26
IV. 令和3年度 一般会計予算		
1 令和3年度 一般会計予算		27
2 令和3年度 活動資金募集お願い額一覧表		28

I. 令和3年度 基本方針

新型コロナウイルス感染症が、国内はもとより世界的に深刻な問題となりました。

日本赤十字社は、発生初期から、クルーズ船等への救護班、DMAT（災害派遣医療チーム）要員を派遣し、乗員乗客の健康の確保等に努めました。現在も全国の赤十字病院を中心に新型コロナウイルス感染症の治療及び感染拡大防止のための活動に取り組んでおります。

また、近年、世界各地で発生する大規模な自然災害、テロや紛争など、一国では解決困難な国際的課題が急増しており、赤十字が取り組むべき課題が山積しています。

日本国内においても、令和2年7月豪雨災害では、西日本や東日本で大雨による災害が発生し、多くの地域に甚大な被害をもたらしました。また、地震、火山の噴火による災害等も頻発しており、さらには、南海トラフ地震が発生する恐れがあると危惧されております。

日本赤十字社は、新型コロナウイルス感染症がまん延する状況下においても、「災害対応」と「感染症対応」を両立して取り組んでまいります。

そのほか、少子高齢社会における医療・介護をめぐる行政施策が進められ、多様なNPO活動の普及など、日本赤十字社を取り巻く環境は加速的に変化しており、社会における赤十字活動のあり方が問われるようになっていきます。

このため、日本赤十字社では、時代と共に変化するこれからの社会課題やニーズに柔軟に対応し、赤十字の使命を果たし続けていくために、今から10年後に目指す姿やそれを実現するための長期戦略、行動指針等を示した「日本赤十字社 長期ビジョン」を策定しました。具体的な取り組みや目標を整理した3年毎の中期事業計画及び毎年の単年度事業計画を策定し、長期ビジョンの実現・達成を目指すこととし、令和2～4年度の中期事業計画として「災害や紛争時における支援の充実と※レジリエンスの強化」を救護・社会活動全体における主要な共通テーマとして事業展開をしてまいります。

※レジリエンス：復興力

奈良県支部では、感染防止の対応策を十分にとった上で、防災ボランティアの協力を得ながら、災害救護体制の更なる強化を図るとともに、自助・共助の重要性を踏まえながら、地域や学校における防災・減災のための取組みを普及してまいります。そして、急速に進展する少子高齢社会に対応しながら、いざという時に役立つ赤十字講習や、大切ないのちを救う血液事業の推進など、健康・医療、福祉等に関する活動に取り組めます。

さらに、これらの活動を支えていただいている地域奉仕団をはじめとする赤十字ボランティアや青少年赤十字の育成・強化を図ります。

今後とも、日本赤十字社の使命に基づき、県民の皆さまからお寄せいただく貴重な活動資金を効果的に活用し、以下の取組みについて、目標を明確にして計画的に推進してまいります。

- | | | | |
|---|-----------|---|--------------|
| 1 | 災害救護体制の強化 | 6 | 血液事業の推進 |
| 2 | 赤十字講習の充実 | 7 | 赤十字ボランティアの育成 |
| 3 | 青少年赤十字の育成 | 8 | 効果的な広報の展開 |
| 4 | 国際活動の推進 | 9 | 活動資金の募集 |
| 5 | 救護看護師の養成 | | |

II. 令和 3 年度年間活動予定

月	名 称	場 所	内 容
4	奉仕団地区委員会（4 月～6 月）	各市町村	令和 3 年度支部・奉仕団事業計画
	赤十字事務担当者会議	橿原市	令和 3 年度事業計画、活動資金募集の留意点
	安全法指導赤十字奉仕団総会	奈良市	令和 2 年度事業報告、令和 3 年度事業計画
	無線・救護赤十字奉仕団総会	支部	令和 2 年度事業報告、令和 3 年度事業計画
5	赤十字運動月間	県内各地	赤十字事業の広報活動、活動資金協力依頼
	近鉄奈良駅前横断幕設置	奈良市	赤十字活動啓発横断幕の設置
	赤十字看護専門学生助成金交付	支部	有功会より看護学生へ一部費用を助成
	救護班基礎研修会	支部	救護活動に必要な知識と技術の習得
	水上安全法救助員Ⅰ養成講習会	大和郡山市	水の事故防止、泳ぎの基本と自己保全 など
	全国赤十字大会参加	東京都	式典：有功章等受章、アトラクション：講演
	地区有功会総会	各市町村	令和 2 年度事業・決算報告、令和 3 年度事業計画
	青少年赤十字賛助奉仕団総会	支部	令和 2 年度事業報告、令和 3 年度事業計画
	青少年赤十字指導者協議会	支部	
	支部監査委員会	支部	令和 2 年度事業報告、決算概要
	奉仕団支部委員会	支部	
6	第 4 ブロック(近畿)合同災害救護訓練	兵庫県	
	支部評議員会	支部	令和 2 年度事業報告、決算概要
	救急法基礎・養成講習会	奈良市	心肺蘇生、AED の使用法、止血・包帯法 など
7	献血キャンペーン 7 月～8 月	各市町村	街頭献血呼び込み
	有功会総会	奈良市	役員改選、令和 2 年度事業・決算報告、令和 3 年度事業計画
	地域奉仕団研修会	橿原市	活動促進助成金の活動報告、こころのケアなど
	幼児安全法支援員養成講習	支部	子どもの応急手当、一次救命処置 など
8	青少年赤十字トレーニングセンター	奈良市	ボランティアについて、応急手当、フィールドワーク など
	救急法基礎・養成講習会	奈良市	心肺蘇生、AED の使用法、止血・包帯法 など
	親子で学ぶ防災教室	支部	非常食作り、応急手当 など
	岡山ハンセン病施設訪問	岡山県	奈良県人会との交流

月	名 称	場 所	内 容
9	赤十字フェスタ 2021 in なら		赤十字事業の PR 活動 など
	災害時要配慮者生活支援講習	支部	知って役立つ知識、非常食作り、応急手当 など
10	看護専門学校推薦入試	支部	
	奈良県防災総合訓練		医療救護、傷病者搬送
11	奈良県赤十字大会	奈良市	赤十字功労者の表彰など
12	NHK 海外たすけあいキャンペーン	各市町村	街頭募金、NHK 奈良放送局での受付 など
	有功会連絡協議会	奈良市	地区有功会活動報告 など
	救急法基礎・養成講習会	橿原市	心肺蘇生、AED の使用法、止血・包帯法 など
	奈良マラソン救護	奈良市	救護活動
	青少年赤十字児童生徒交流会	奈良市	NHK 海外たすけあい募金、赤十字学習
	幼児安全法支援員養成講習	支部	子どもの応急手当、一次救命処置 など
1	はたちの献血キャンペーン 1 月～2 月	各市町村	街頭献血呼び込み
2	奉仕団支部委員会	支部	令和 3 年度事業中間報告、令和 4 年度事業計画
	支部評議員会	支部	令和 4 年度事業計画、予算概要
	救急法基礎・養成講習会	大和郡山市	心肺蘇生、AED の使用法、止血・包帯法 など
3	近畿大学農学部赤十字奉仕団総会	奈良市	活動報告、役員改選 など
	有功会理事会	奈良市	役員改選、有功章会員加入状況等報告
	看護奉仕団研修会	支部	災害時における看護活動の技術習得 など
	防災ボランティア研修会	支部	災害時におけるボランティア活動の技術習得 など
	災害時要配慮者生活支援講習	支部	知って役立つ知識、非常食作り、応急手当 など
未 定	こころのケア研修会	支部	
	健康生活支援講習支援員養成講習	支部	高齢者の健康と安全、地域における高齢者支援 など

III. 令和3年度 事業計画

1 災害救護体制の強化 ―災害からいのちを守る―

国内において、地震や大型台風などの災害で被災された方々を救うため、救護班の編成と訓練、救護資機材・救援物資の整備、防災ボランティアの研修など、災害救護体制の強化を図ります。また、被災された方々のための義援金の募集活動も行います。

(1) 救護班の編成と訓練

- ① 適切かつ迅速な災害救護活動が展開できるよう、第4ブロック(近畿)合同災害救護訓練(兵庫県：6月19日)に、委託契約を結んでいる医療救護班や医療コーディネーター及び防災ボランティアなどの協力のもと参加します。

また、行政主催の奈良県防災総合訓練(10月下旬)に、関係機関として参加します。

【第4ブロック(近畿)合同災害救護訓練】



▲救護所での医療救護活動



▲避難所アセスメント

【県防災総合訓練】



▲避難所アセスメント



▲防災ボランティアによる担架搬送

【医療救護班】

名 称	班数	備考
地方独立行政法人奈良県総合医療センター	2 班	平成 26 年 4 月 1 日委託契約締結 (地域独立行政法人 奈良県立病院機構)
地方独立行政法人奈良県西和医療センター	2 班	
南奈良総合医療センター	1 班	平成 28 年 4 月 20 日委託契約締結
市立奈良病院	1 班	平成 26 年 4 月 1 日委託契約締結
大和高田市立病院	1 班	平成 26 年 9 月 1 日委託契約締結
奈良県立医科大学附属病院	1 班	平成 28 年 11 月 1 日委託契約締結
合計	8 班	

※1 班の体制：医師 1 名・看護師 3 名・主事 1 名・調整員 1 名 計 6 名

- ② 医療救護研修として、日赤災害医療コーディネーターを中心に奈良県支部と委託契約を結んでいる医療救護班（医師、看護師、主事等）を対象に、救護員基礎研修、こころのケア研修を支部主催で実施します。

また、本社主催の研修（全国救護班研修、日赤災害医療コーディネート研修など）にも参加していただきます。



▲日赤災害医療コーディネーター及びコーディネートスタッフを委嘱



▲救護班基礎研修：支部主催



▲こころのケア研修：支部主催

- ③ 県内で災害が発生した際に対応できるよう、日赤災害医療コーディネーターとの調整を行い、災害に対応できる体制を構築します。
- ④ 大規模災害が発生した際、支部の備蓄のみでは十分な活動ができないことから、迅速かつ的確な災害救護を実施できる体制を構築するため、企業・団体との災害時物資支援協定に取り組みます。
- ⑤ 防災・減災教育事業として赤十字防災セミナーを実施。自治会等地域住民を対象にボランティアの協力を得て、※災害エスノグラフィー、※災害図上訓練 DIG、非常食作り、身近なものを利用した応急手当などニーズに応じて実施し、地域における自助・互助・共助の力を強化します。

※下記写真は、以前の実施体系ですが、新型コロナウイルス感染防止対策として、個人ワークでのセミナーを実施します。



▲災害エスノグラフィー



▲ラップを利用した応急手当

※災害エスノグラフィー

過去の災害を追体験するための読み物で、読むことにより災害の全体像を理解し、次に何が起るかを想像するための力を養う。

※災害図上訓練 DIG

自らの居住地域で、防災上の資源や災害時に出現する危険性を地図に明記し、個人や地域単位であらかじめ行うべき取り組みについて検討し理解を深めます。

(2) 救護資機材・救援物資の整備

- ① 南海トラフ地震などの大規模災害に備え、令和元年度から3ヵ年計画で、奈良県支部において災害救護車両・衛星電話などの救護資機材の整備や、医療救護班の派遣等に必要な非常食の備蓄などを行ってきました。
今年度は最終年度として引き続き、救護資機材の更新と救護班要員装備品の整備を重点的に行います。



▲エアテント

【更新予定表 (3ヵ年計画)】

令和元年度	令和2年度	令和3年度
・救急車及び災害救援車 ・災害救援車（地区分区配備） ・救援物資（ブルーシート・布団） ・非常食の備蓄 ・救護服、救護班用 T シャツ ・タブレット ・デジタルカメラ ・ポータブル LED 作業灯 ・AED バッテリー ・ターニケット（止血帯） など	・災害救援車（貨物タイプ・軽タイプ） ・災害救援車（地区分区配備） ・無線機（基地局、車載器など） ・災害用移動式エアコン ・テント ・救援物資（ブルーシート・布団） ・非常食の備蓄 ・折畳診察台 ・LED バルーン投光器 ・インバーター発電機 ・血圧計 ・トランシーバー など	・災害救援車（地区分区配備） ・救援物資（ブルーシート・布団・バスタオル） ・エアテント ・フォークリフト ・救護班靴 ・災害用ヘルメット ・災害用テレビモニター ・AED 本体 ・スクープストレッチャー ・非常食の備蓄 など

- ② 救援物資（布団、安眠セット、緊急セット、毛布、タオルケット、バスタオル）の備蓄と配布を引き続き行うとともに、熊本地震災害でニーズが多かったブルーシートについても備蓄します。

また、不慮の火災などで亡くなられた被災者には弔慰金（1人当たり 20,000 円）を届けます。



▲毛布



▲安眠セット



▲緊急セット



▲ブルーシート



▲タオルケット

【救護資機材の整備】※()内の数字は、令和3年度に新たに追加・更新整備を予定しています。

ー 奈良県支部 ー

品名			数量	品名			数量
救護班要員装備品	医療資機材携行用靴(1セット4バック)		7	救護所資機材	大型フレームテント		2
	救護班要員携行バック		30		大型エアータント (ハイブリット式)		2(1)
	大型救急箱		5		エアータント(大1・小1)		2
	パルスオキシメーター		9		組立式テント		12
	電子体温計		20		ワンタッチテント(大3・小4)		7
	ターニケット(止血帯)		50		プライベートテント		1
	自動体外式除細動器(AED)		3		間仕切り用ブラーション(2種類)		30
	救護服：上下		196		簡易トイレ		1
	ヘルメット		30(30)		簡易トイレ用ワンタッチテント		2
	救護服：雨衣		30		自家発電機(ガソリンタイプ)		9
	救護服：防寒衣		30		水銀灯付発電機		1
	救護服：Tシャツ		110		蓄電池		1
	防護メガネ		20		投光器		5
	防塵マスク		8		誘導灯		5
	LEDヘッドライト		10		冷暖房機器 (冷暖房器：3、暖房器：1、冷房器：3)		7
	懐中電灯		10		診療用机・椅子		1
	ペンライト(ホルダー付)		30		診察台		8(4)
	寝袋		50		折畳式寝台		80
	万能ハサミ		20		簡易ベッド		6
	ホイッスル		50		傷病者用毛布		70
	非常食：アルファ米(50食)		12		スクープストレッチャー		3(3)
	非常食：ビスケット		37		担架		15
	非常食：ドライスープ(2種)		300		担架架台		10
	非常食：粥物(2種)		324		浄水器		1
	非常食：惣菜(3種)		269(100)		LED ランタン		10
	非常食：携帯おにぎり		200(200)		拡声器		3
	非常食：水(24本入)		40(10)		リヤカー(大・小)		各1
	非常食：丼物(2種)		65		レスキューカー		2
資機材 原子力対応	空間線量率測定用サーベイメータ		1	フォークリフト		1(1)	
	防護服セット		6	移動炊飯器		9	
	デジタル個人線量計		7	通信機器	業務用無線基地局		2
	NBC 除染資機材セット		1		業務用無線陸上移動局(車載機)		12
支援要員資材	ボランティアユニフォーム		40		業務用無線陸上移動局(携帯機)		8(3)
	ボランティア反射チョッキ		50		アマチュア無線局		1
	ボランティア帽子		50		室外設置用外部アンテナ		3
	防寒衣		59		デジタル通信システム (D-STAR レピーター)		2
	雨衣(白色・黄色)		50		トランシーバー		10
車両 災害救護	災害通信指揮車(衛星電話搭載)		1		携帯電話		1
	救急車		1		データ通信端末		1
	災害救援車		5		デジタルカメラ		3
	救護資機材運搬トラック		1		タブレット		1
					災害用テレビモニター		1(1)
					衛星携帯電話		3

ー 地区区分(市町村) ー

品名		数量	品名	数量
災害対応資機材	災害救援車	54(3)	ワンタッチテント(大)	24
	移動炊飯器	53	自動体外式除細動器(AED)	30(19)
	自家発電機：ガソリンタイプ 1600W	22	自家発電機：ガソリンタイプ	3
	投光機	36	自家発電機：プロパンタイプ	11

【救援物資の備蓄】(令和2年12月末現在)

毛 布	緊急セット	安眠セット	布 団	バスタオル	フルシート	タオルケット
3,313 枚	1,203 セット	1,132 セット	382 組 (100)	847 枚 (500)	579 枚 (100)	1,550 枚

(3) 国内義援金及び海外救援金の募集活動

被災者支援のため、各種団体及び各報道機関の協力のもと、国内義援金及び海外救援金の募集活動を行います。

【令和3年度募集の国内義援金及び海外救援金(予定)】

募集名		募集期限
国内義援金	平成28年熊本地震災害義援金(熊本県)	
	平成29年7月5日からの大雨災害義援金(福岡県)	
	平成30年7月豪雨災害義援金(岡山県・広島県・愛媛県)	令和3年6月30日
	令和元年台風第19号災害義援金(宮城県・福島県・長野県)	
	令和2年7月豪雨災害義援金(福岡県・熊本県)	
海外救援金	中東人道危機救援金	
	バングラデシュ南部避難民救援金	

【令和2年度国内義援金受付実績表：令和3年1月末現在】(単位：円)

義援金募集名	件数	金額	募集期限	前年度までの累計
東日本大震災義援金	88	583,136	令和3年3月31日	1,536,330,839
熊本地震災害義援金	29	413,388	令和3年3月31日	145,670,717
平成29年7月5日からの大雨災害義援金	4	111,751	令和3年3月31日	14,377,351
平成30年7月豪雨災害義援金	12	142,960	令和3年6月30日	66,680,881
令和元年8月豪雨災害義援金	33	85,869	令和2年8月31日	3,994,133
令和元年台風第15号千葉県災害義援金	36	34,169	令和2年6月30日	4,199,303
令和元年台風第19号災害義援金	64	385,198	令和3年3月31日	19,189,794
令和2年7月豪雨災害義援金	254	13,689,096	令和3年3月31日	
合計	520	15,445,567		1,790,443,018

【令和2年度海外救援金受付実績表：令和3年1月末現在】(単位：円)

救援金募集名	件数	金額	募集期限	前年度までの累計
中東人道危機救援金	1	69	令和3年3月31日	185,454

2 赤十字講習の充実 ―いざという時に備えて―

心肺蘇生やAEDの使用方法を学ぶ救急法をはじめ、いざという時にすぐに役に立つさまざまな講習を実施します。また、自治会・町内会など地域防災力を高める活動として、地区分区へ働きかけ、小冊子「災害時の備え」を活用した防災・減災のための講習会を積極的に取り組んでいきます。

健康生活支援講習では、要介護状態になっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けられることを目標に進められている地域包括ケアシステムに貢献できるよう、地域包括支援センター、社会福祉協議会、NPO 等と協働して、生活支援・介護予防のための講習普及に努めていきます。

(1) 防災・減災のための講習会

- ① 自治会・町内会等の地域防災力を高める活動として、赤十字防災啓発プログラム「地域で考える災害時の備え」を活用した講習会を、県下各地域で積極的に開催します。
- ② 「災害時要配慮者生活支援講習」として、災害時の避難所で高齢者に及ぼす影響や接するときの心づかいと支援の方法を学ぶ講習会を開催します。
- ③ 短期講習として、学校や地域・団体などで開催するとともに、安全法指導赤十字奉仕団員等を講師として派遣します。また、子育て支援事業として「親子防災教室」を実施します。

講習会区分	実施日	場 所	時 間
地域で考える災害時の備え ・赤十字防災啓発プログラム ・体験プログラム など	随時受付します。	各地域	1日、半日、2時間等 ご希望に対応します。
災害時要配慮者 生活支援講習	9月、 令和4年3月	支部	9時30分～15時30分
親子防災教室	随時受付します。	各地域	1日、半日、2時間等 ご希望に対応します。



▲冊子
「赤十字防災啓発プログラム」



▲毛布で担架搬送



▲非常食づくり

(2) 救急法等の講習会

救急法講習、水上安全法講習、健康生活支援講習、幼児安全法講習を、講習指導資格を有する安全法指導赤十字奉仕団にご協力いただき、以下のとおり開催します。

令和2年度は、県下地域で94回開催し、延べ2,103人(令和2年12月末現在)の方に受講いただいています。

【奈良県支部主催の救急法等講習会普及計画】

講習会区分		実施日	場 所	時 間
救急法	基礎講習 及び 救急員養成講習	6月27日(日):基礎 7月3日(土)、4日(日):養成	奈良市	基礎:9時30分~15時 養成:9時30分~ 17時30分
		8月:基礎 8月:養成	奈良市	
		12月:基礎 12月:養成	橿原市	
		令和4年2月:基礎 令和4年2月:養成	大和郡山市	
水上安全法	救助員Ⅰ養成講習	5月16日、23日、30日、6月6日 いずれも日曜日	支部 大和郡山市	9時30分~17時
健康生活 支援講習	支援員養成講習	未定	支 部	9時30分~15時30分
幼児安全法	支援員養成講習	7月6日(火)・7日(水)	支 部	9時~17時
		12月18日(土)・19日(日)		

※感染予防対策として、受講人数の制限、消毒資材・顔認証体温計の整備、マスク着用などに努めます。

※お申し込みは、奈良県支部事業推進課までお願いします。



▲救急法



▲水上安全法



▲幼児安全法



▲健康生活支援講習



▲地域包括ケアシステム

3 青少年赤十字の育成 ―思いやりを育む―

(加盟校：129 校 幼稚園・保育所：29 校 小学校：74 校 中学校：16 校 高等学校：10 校)

将来をになう児童・生徒が、自ら「気づき・考え・実行する」という生きる力を養うため、先生等の青少年赤十字指導者の協力のもと、学校教育の現場で豊かな人間性や社会性を育む活動に取り組めます。

- ① 学校における防災教育の充実を図るため、県下の全加盟小学校・中学校、高等学校に配布した青少年赤十字防災教育「まもるいのちひろめるぼうさい」の積極的な活用を働きかけることと、平成 26 年度から実施している「青少年赤十字活動支援事業（助成金 3 万円の交付）」を通じて、青少年赤十字加盟校が取り組む自主的かつ積極的な活動を支援します。

【令和 2 年度実施実績】

学校名	事業名称	活動内容
奈良市立 飛鳥小学校	飛鳥スマイルキッズ 「花いっぱいプロジェクト」	●地域の清掃活動やお世話になっている地域の方々へ子どもたちが育てた花のプレゼント ●空き缶や古着を回収し、リサイクルし限りある資源を大切にする。 ●学校花いっぱいプロジェクトを展開し、季節ごとの花や植物の栽培活動を通じて自然を愛する心情をはぐくむ。
奈良市立 大安寺小学校	みんなで創ろう「笑顔あいさつ つながり心の通じ合う学校」	●児童会を中心とした「あいさつ運動」の展開 ●児童会や環境委員会を中心とした学校環境整備 ●児童会や環境委員会の呼びかけによる学校周辺の清掃活動



▲飛鳥小学校
～育てた花のプレゼント～



▲大安寺小学校
～清掃活動～

- ② 親子で学ぶ防災教室を開催します。

奈良県青少年赤十字指導者協議会と協働して、非常食作り体験、ラップやビニール袋など身近なものを使った手当、毛布ガウンやホットタオルなど非常時に対応できる知識について学びます。



▲毛布ガウン



▲身近なものを使った応急手当

- ③ 県内の青少年赤十字未加盟校に対して、青少年赤十字賛助奉仕団の協力を得ながら未加盟校を訪問し、加盟校の普及に努めます。



▲パンフレット
～加盟登録のご案内～

- ④ 幼稚園、保育園向け防災教育教材「ぼうさいまちがいさがし きけんはっけん！」を未加盟園に紹介し、加盟普及に努め、配布を希望された加盟園に提供します。



▲防災教育教材

▲防災教育講習

- ⑤ 「青少年赤十字防災教育推進事業」として、青少年赤十字加盟校並びに新しい指導者を養成するため、県立教育研究所において、小・中学校、高等学校の教諭や養護担当教諭等を対象に、「AED講習」や「防災講習」などを実施します。



▲防災教育教材

▲避難所 HUG(運営ゲーム)

▲避難所 HUG 研修会

- ⑥ 活動計画などを取り決めるため、奈良県青少年赤十字指導者協議会を開催（随時）します。また、第4ブロック(近畿)青少年赤十字指導者協議会・研修会を当番支部として開催するほか、本社主催の指導主事対象青少年赤十字研究会や青少年赤十字リーダーシップ・トレーニング・センター指導者養成講習会などに参加し、指導者の育成に取り組めます。

⑦ 青少年赤十字リーダーシップ・トレーニングセンターを開催します。

集団生活を通じて、リーダーとして必要な自主・自律の精神を身につけ、赤十字や青少年赤十字活動に関する知識や技術への理解を深め、生活態度全般にわたって学びます。(奈良市：8月上旬)



▲非常食づくり



▲アイマスク体験



▲壁新聞発表

⑧ 他校の児童・生徒と交流を深める青少年赤十字児童・生徒交流会を開催します。また「NHK 海外たすけあい」の募金活動も併せて、近鉄奈良駅周辺やNHK奈良放送局で実施します。(12月下旬)



▲児童・生徒交流会での竹ひごタワー作成



▲「NHK 海外たすけあい」街頭募金

⑨ 被災された方々を支援するため、「災害義援金」の募金活動を実施します。



▲「令和2年7月豪雨災害義援金」街頭募金のようす

⑩ 国際人道法の普及や国際理解の教育及び防災教育を推進するため、県下の学校などへ指導者を派遣します。

4 国際活動の推進 ―世界とつながる―

世界 192 の国と地域にある赤十字の一員として、本社の要請のもと、災害や紛争等で苦しむ人々の緊急救援や復興支援に協力します。奈良県支部では本社と連携して次の事業を行います。

(1) 緊急救援

- ① 中東人道危機など、海外で発生する大規模災害や紛争等被害者の救援金募集活動を行います。(随時)
- ② 在外日本人及び在日外国人の安否調査に協力します。(随時)



▲中東人道危機

新型コロナウイルス感染禍のシリアで、病院患者の子どもと接する赤新月社ボランティア

(2) 復興支援

- ① バングラデシュ保健医療支援事業に資金協力します。
- ② 「NHK 海外たすけあい」キャンペーンを実施します。(12月1日～25日)



▲「NHK 海外たすけあい」
キャンペーン

(3) 赤十字思想の普及・啓発

- ① 本社、第4ブロック(近畿)主催の国際人道法セミナーに参加します。

5 救護看護師の養成 ―国内外で活躍できる看護師を―

豊かな人間性と看護に関する幅広い能力と、救護の専門知識を兼ね備えた看護の実践者を育成するため、大阪赤十字看護専門学校と京都第二赤十字看護専門学校に委託し、救護看護師の養成を行います。

なお、看護大学及び京都第二赤十字看護専門学校を対象に奨学金の支援も行います。

養成計画	1年	2年	3年	計
看護専門学校	0人	0人	2人	2人

※令和3年4月入学生から、京都第二赤十字看護専門学校へ委託。
上記の2名は大阪赤十字看護専門学校に在籍しています。



▲実技演習の授業風景



▲戴帽式

6 血液事業の推進 ― 献血にご協力を!! ―

奈良県赤十字血液センターでは、国民の善意の献血により支えられている血液事業の運営が適切かつ効率的に執行され、透明性が確保されているかを検証し、必要に応じて事業の見直しを図るとともに、積極的な情報発信を行い、採血業・販売業において「安全な血液製剤の安定供給の確保等に関する法律」等の関係法令に則った適正な事業運営を行います。

- ① 安全な血液製剤を安定的に医療機関にお届けするため、合理的・効率的な供給に努めます。
 - ② 輸血を受ける患者さんの副作用の軽減、血液製剤の安全性の確保及び事業効率の観点から 400mL 献血・成分献血を推進し、医療機関の需要に応じた計画的な採血に努めます。
 - ③ 若年層を対象とした献血者確保対策を実施します。
 - ④ 広く県民への献血の普及啓発を図るため、ホームページ、Facebook、ラジオ放送、イベント等の展開を基軸とした各種キャンペーンを実施し、効果的な普及活動を行います。
- ・ はたちの献血キャンペーン（1月1日～2月28日）、愛の血液助け合い運動（7月1日～8月31日）、全国学生クリスマス献血キャンペーン（12月）等を実施します。
 - ・ 小学生を対象とした「献血まるわかりゼミ」の開催と、高校生・大学生・県内企業の新入職員を対象とした「献血セミナー」を実施します。
 - ・ 新聞広報による「はたちの献血キャンペーン」と「愛の血液助け合い運動」の啓発記事を掲載します。（奈良県支部有功会提供）



▲赤十字フェスタ



▲学生献血推進協議会
クリスマス献血キャンペーン



▲近畿学生献血推進協議会
統一キャンペーン



▲学校献血

7 赤十字ボランティアの育成 ―活動を支える―

“赤十字ボランティアは、地域社会を住みよくしよう”という気持ちを持った人々の集まりで、災害救護や献血の推進、講習会の普及などの赤十字事業の推進をはじめ、地域社会のニーズに応じた幅広い活動に積極的に参加、協力いただいています。

奈良県支部では、赤十字ボランティアの自主性を尊重し、地域のニーズに応えた魅力ある活動を支援してまいります。

(1) 地域赤十字奉仕団（団数及び団員数：39 団、2,995 人）昭和 23 年発足

市町村の地域ごとに結成され、地域単位で活動計画を立案し、奉仕活動を行います。全体の取組みとして、赤十字事業の普及と推進、ハンセン病施設訪問(岡山県)、地区委員会や研修会などを開催します。また、地域活動では、活動資金への協力を始め、防災訓練やイベントでの非常食づくり・配布への参加、献血協力の呼びかけ、クリーンアップならキャンペーンの参加、海外たすけあい募金活動と受付業務の協力などのほか、老人ホームでの交流や地域での清掃活動等に取り組みます。

① 令和元年度から取り組んでいる「地域赤十字奉仕団活動促進助成金交付事業」をより充実させ、実施してまいります。

地域赤十字奉仕団（分団）が取り組む赤十字活動に対し助成金を交付し、奉仕団の活動を促進することにより、赤十字活動に対する県民の理解を深め、健康で安心に暮らせる共同社会の構築に寄与する奉仕活動を助成します。

令和 2 年度は、新型コロナウイルス感染症拡大により、マスク不足が深刻となり、手作りマスクの作製に取り組みました。



▲奈良市地区赤十字奉仕団
佐保川分団



▲奈良市地区赤十字奉仕団
済美分団



▲奈良市地区赤十字奉仕団
精華分団



▲奈良市地区赤十字奉仕団
大宮分団



▲奈良市地区赤十字奉仕団
都祁分団



▲大和郡山市赤十字奉仕団



▲五條市赤十字奉仕団



▲御所市赤十字奉仕団



▲香芝市赤十字奉仕団



▲平群町赤十字奉仕団



▲安堵町赤十字奉仕団



▲三宅町赤十字奉仕団



▲田原本町赤十字奉仕団



▲高取町赤十字奉仕団



▲広陵町赤十字奉仕団

② 令和3年度新規事業として、地域奉仕団対象防災講習会を開催します。

地域奉仕団の基礎、災害時の役割や避難所で役立つ知識を習得することを目的に、地域奉仕団の役割、避難所での生活支援、避難所グッズの作製などに取り組みます。



▲活動ブックレット



▲簡単ランタン



▲ダンボールベッド

③ 県下全体の事業活動の取組方針を決定するための支部委員会の開催、各地区内の事業活動の取組方針を決定するための地区委員会を開催します。

④ 奉仕団活動の促進のため、奉仕団中央委員会、支部指導講師研修などに出席します。

⑤ 地域奉仕団研修会（7月）を実施します。



▲研修会



▲守川医師による講義



▲セラピューティックケア講習

⑥ ハンセン病施設訪問事業（岡山県：昭和27年からの継続事業）を行います。（訪問時期：8月～9月頃）



▲ふれあい交流会



▲メッセージ集



▲やまと郡山かるた絵



▲マスクケース(川西町奉仕団)

- ⑦ 地域ニーズに応じたモデル奉仕団活動や、独自活動（一日赤十字開催や地域イベントとのコラボなど）のほか、講習普及活動、献血協力の呼びかけ、クリーンアップキャンペーンに参加します。



▲防災イベントでの炊き出し
～大和高田市赤十字奉仕団～



▲ふれあい・いきいき祭での
赤十字 PR 活動～樫原市赤十字奉仕団～



▲クリーンアップキャンペーン
～川西町赤十字奉仕団～

- ⑧ 防災・減災教育事業として、園児・保護者を対象として防災や赤十字運動の紙芝居などを実施し、赤十字思想の普及に努めます。



▲香芝市赤十字奉仕団による防災・減災教育事業（寸げき、紙芝居）

- ⑨ 地域内での「法人会費」及び「災害義援金」の募集活動、「NHK海外たすけあい」の募集活動及びNHK 奈良放送局での受付に協力します。



▲災害義援金募集活動
～天理市赤十字奉仕団～



▲「NHK 海外たすけあい」街頭募金
～生駒市赤十字奉仕団～

- ⑩ モデル奉仕団の指定による活動の充実に努めます。

川西町赤十字奉仕団（団員：137 人）

【モデル活動名：地域とともに歩む日赤奉仕団】

令和元年度から 3 年計画で、会員募集への支援体制、広報、啓発活動、地域美化活動の共同実施、夏休みこども防災教室の実施、赤十字講習の受講、献血推進キャンペーンへの協力などに取り組みます。

新規：大淀町赤十字奉仕団（団員：18 人）

【モデル活動名：災害救護に関する活動】

令和 3 年度から 3 年計画で取り組みます。具体内容は現在検討中。

川西町赤十字奉仕団



▲非常食作り



▲マスクケース作り

(2) 安全法指導赤十字奉仕団（団員：116 人）昭和 52 年発足

赤十字講習指導員資格を有し、健康で安全に暮らすための知識と技術を伝える講習を普及します。

- ① 赤十字救急法、健康生活支援講習、幼児安全法、水上安全法、災害時要配慮者生活支援講習の講習普及とともに、赤十字思想の普及や活動資金への協力依頼や使いみちについての啓発活動等を行います。
- ② 防災・災害救護訓練への参加及び指導的役割を発揮できるよう技術の向上を図ることを目的とした研修会（10 月）を開催します。
- ③ イベントなどでの講習普及活動に努めます。



▲研修会



▲総会



▲講習指導

(3) 無線・救護赤十字奉仕団（団員：23 人）昭和 47 年発足

昭和 47 年「無線赤十字奉仕団」として発足、平成 25 年に現在の名称に変更

アマチュア無線技士の資格を生かし、災害時の情報収集や伝達活動になうため、通信訓練や救護活動を行います。

- ① 非常時の連絡通信体制の整備並びに県下及び他府県との無線伝播調査を実施します。
- ② 防災・災害救護訓練へ参加します。
- ③ イベントなどでの救護活動や通信連絡活動を行います。



▲災害救護訓練での通信訓練



▲総会

(4) 青年赤十字連絡協議会（団員：32 人）

奈良県青年赤十字奉仕団(7 名：昭和 60 年発足) 近畿大学農学部赤十字奉仕団(25 名：平成 4 年発足)

奈良大学学生赤十字奉仕団(休団：平成 24 年発足)

勤労青年や大学生で組織され、献血の呼びかけや青少年赤十字のサポートなどの活動を行います。また、県下の大学等に学生奉仕団の結成を呼びかけます。

- ① 赤十字思想の普及と献血推進、国内外で発生した災害義(救)援金募集活動を行います。

- ② 本社主催のピア・エデュケーション研修会(同年代の若者が命の大切さなどを共に学び考える活動)、Y A B C研修会 (Youth as Agents of Behavioral Changes) や第4ブロック(近畿)リーダー養成研修会に参加します。
- ③ 防災、災害救護訓練に参加します。
- ④ 青少年赤十字活動のサポートを行います。
- ⑤ 救急法救急員資格の習得に努めます。
- ⑥ 県内の大学や短大へ奉仕団結成の呼び掛けを行います。



▲第4ブロックリーダー養成研修会



▲令和2年7月豪雨災害義援金街頭募金



▲マスクの寄贈

(5) 看護赤十字奉仕団 (団員：47人) 昭和48年発足

看護師の資格を有する人たちで結成され、公共性の高い行事の臨時救護などの活動を行います。

- ① 地域への貢献のため、公共性の高い行事等の臨時救護や付添救護活動を通じて地域活動に協力します。(奈良マラソン、県スポーツ大会、地域イベント等)
- ② 防災、災害救護訓練に参加します。
- ③ 技術の向上を図るための研修会を開催します。(令和4年3月)



▲奈良マラソンでの救護活動



▲付添救護



▲研修会

(6) 青少年赤十字賛助奉仕団 (団員：16人)

昭和39年「賛助会」として発足、平成14年に現在の名称に変更

- ① 地域において、地域赤十字奉仕団と連携し、「地域で子どもを育てる」をキャッチフレーズにして、地域の安心・安全活動に取り組みます。
- ② 青少年赤十字トレーニングセンター(奈良市：8月)に協力します。
- ③ 本社主催の総会や、第4ブロック(近畿)支部主催の研修会、交流会に参加します。
- ④ 青少年赤十字活動の加盟校増強や防災教育事業普及に協力します。
- ⑤ 青少年赤十字指導者養成事業への協力、助言などを行います。

(7) 防災ボランティア（個人登録 16 名）平成 9 年発足

支部に個人登録し、災害発生時における救援活動を行います。

- ① 被災者支援に役立つ知識・技術が習得できる研修会に参加します。
- ② 防災、災害救護訓練に参加します。
- ③ 年 4 回の赤十字 NEWS の発送業務に協力します。

8 効果的な広報の展開 ―活動へのご理解とご参加を―

災害救護活動や国際活動など人道的な活動を行っている赤十字の事業内容を、幅広く県民に知っていただき、赤十字ボランティアへの参加、社会貢献のための事業参加、活動資金の募集への理解を深めるため、新聞広告等を通じて、効果的な広報活動を行います。

また、大型商業施設にて「赤十字フェスタ」を開催し、赤十字活動の P Rを行います。



▲「赤十字フェスタ 2020 in なら」～イオンモール大和郡山～

(1) 奈良県赤十字大会の開催

本年、奈良県支部創立 126 周年、奈良県赤十字血液センター創立 50 周年を迎えるにあたり、奈良県赤十字大会を開催します。

この大会は、赤十字思想の普及・啓発、赤十字事業への功労表彰並びに会員・ボランティア相互の交流を図るとともに、関係各位への感謝の気持ちを表すために開催します。

開催日	場所	参加人数
令和 3 年 11 月 30 日（火）	奈良県コンベンションセンター	約 800 名



▲平成 27 年奈良県赤十字大会

(2) 支部の広報活動

- ① 日本赤十字社が全国統一で実施する「赤十字会員増強運動月間」(5月)並びに、年間を通じて広報活動に取り組みます。
- ② 運動月間(5月)に近鉄奈良駅前行基広場にて、啓発用横断幕を設置します。
- ③ テレビ放送(運動月間:5月及び随時放送)での広報活動(奈良テレビ、コミュニティビジョン吉野ケーブルテレビ、下市テレビ)も行います。
- ④ 新聞への広告掲載を行います。(運動月間:5月に、赤十字活動の紹介)
- ⑤ 報道機関に対して、支部事業等の開催状況や、本社作成の広報資材をもって広報の協力を依頼します。(随時)
- ⑥ 広報誌「日赤なら」(5月に20万部)及び「支部の活動報告」(中間報告:10月に2万部)を作成します。



▲日赤なら広報誌

- ⑦ 遺贈、相続寄付をターゲットに日経電子版バナー広告による広報活動を行います。
- ⑧ ホームページを、本社作成の統合WEBサイトに移行し、積極的な広報を行います。

(3) 地区分区(市町村)への広報活動

- ① 広報誌「日赤なら」(20万部)を作成し、各自治会等を通じて県民に配布します。
- ② 各地区分区発行の広報誌に、運動月間や講習会開催など記事の掲載を依頼します。
- ③ 各地区分区に本社作成ポスターの掲示とパンフレット配付を依頼します。
- ④ 地区分区に「赤十字パネル展」の開催を依頼します。
- ⑤ 地区分区(市町村)主催イベント(1日赤十字など)や自治会主催イベント(防災訓練など)に広報パネルやのぼり等資材を貸出ます。



▲天理市地区：赤十字パネル展
～ザ・ボランティア市民活動の集い～



▲橿原市地区：赤十字パネル展
～橿原市ふれあい・いきいき祭り～

(4) 第4ブロック(近畿)合同広報活動

- ① 啓発資材(ポケットティッシュ)3万個を作成します。

9 活動資金の募集及び表彰制度 ―活動資金にご協力を!!―

日本赤十字社は、会員等の皆さまから納めていただく会費と、広く皆さまからお寄せいただく寄付金（これら会費と寄付金を総称して「活動資金」という。）を財源として、災害救護活動や国際活動をはじめ、事業計画に基づく人道的活動を展開します。

活動資金の募集を取り巻く環境は厳しいものがありますが、地区分区、赤十字奉仕団、自治会、日赤有功会をはじめ広く県民の皆さまの赤十字活動に対するご理解を深めながら、活動資金へのご協力をお願いしてまいります。

また、令和3年度より全国統一システムを導入し、寄付者情報の管理体制の充実、個人情報セキュリティの強化、業務の効率化を図ってまいります。

(1) 支部の活動資金取り組み

- ① 地区分区、自治会、町内会や赤十字奉仕団を通じて協力を依頼します。
- ② 地区分区、地域奉仕団と連携し、法人会員への訪問による活動資金の協力を依頼します。
- ③ 県内の幼・小・中・高等学校へ赤十字募金への協力を依頼します。
- ④ 個人・法人へのダイレクトメールによる活動資金協力を依頼します。
- ⑤ 企業の社会貢献活動との連携（寄付金付自販機の設置・活動資金募金箱の設置・赤十字支援マークの活用）、企業・団体と災害時協定の締結、災害に備えた救護装備品の寄贈などに取り組みます。
- ⑥ 遺贈、相続財産によるご寄付を案内します。
- ⑦ 自治会未加盟の地域やマンションへはタウンプラスによる活動資金を依頼します。

【寄付金付自販機設置状況】

寄付金付自販機設置先	設置場所
奈良県奈良土木事務所	奈良市
(株)ぐりーん	天理市
(株)RISING SUN	橿原市
(有)三輪そうめん天寿堂	桜井市
中造園	葛城市
シンシアペットクリニック	三郷町



▲寄付金付自動販売機

【活動資金募金箱設置状況】

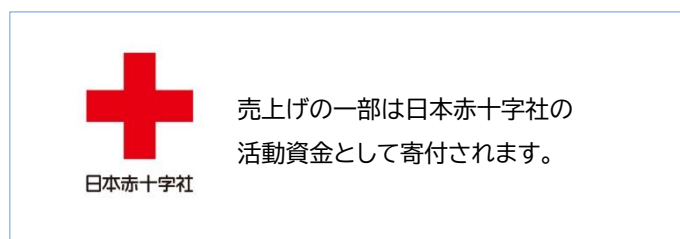
活動資金募金箱設置先	設置場所	活動資金募金箱設置先	設置場所
インプレス	奈良市	奈良カントリークラブ五条コース	五條市
新奈良ゴルフ倶楽部	奈良市	シプレカントリークラブ	五條市
東大寺	奈良市	秋津原ゴルフクラブ	御所市
奈良ホテル	奈良市	奈良中央信用金庫二上店	香芝市
奈良中央信用金庫南奈良支店	奈良市	宇陀カントリークラブ	宇陀市
奈良柳生カントリークラブ	奈良市	オークモントゴルフクラブ	山添村
(有)総合在宅介護センターきら	奈良市	県立万葉文化館	明日香村
医療法人厚生会奈良厚生会病	大和郡山市	吉野カントリークラブ	大淀町
中華料理 橘	大和郡山市		

【災害時物資支援協定の締結】

締結先	設置場所
板倉石油(株)	奈良市
一般社団法人奈良県LPガス協会	奈良市
(株)八尾彦商店	王寺町

【支援マークの締結】

締結先	設置場所
山本松産業(株)	天理市
(株)サンシーワールド	御所市



▲支援マークの一例

(2) 本社の活動資金取り組み

- ① 口座振替、クレジットカード決済などによる活動資金の依頼を行います。

(3) 表彰制度について

多額の活動資金を納入された個人や法人等については、国や日本赤十字社の表彰制度が適用されます。

① 日本赤十字社の有功章贈与・表彰制度

項 目		表 彰 基 準
1.	支部長表彰状・感謝状	活動資金として一時または累計で10万円以上を納められた個人・法人等
2.	銀色有功章	活動資金として一時または累計で20万円以上を納められた個人・法人等
3.	金色有功章	活動資金として一時または累計で50万円以上を納められた個人・法人等
4.	本社感謝状（6条）	金色有功章受章後、更に活動資金として50万円を納められた個人・法人等



▲金色有功章：個人（左：男性 右：女性）



▲金色有功章略章



▲金色有功章(法人)
銀色有功章(個人・法人)

② 国の表彰制度

項 目		表 彰 基 準
1.	厚生労働大臣感謝状	活動資金として100万円以上を納められた個人 活動資金として 300 万円以上を納められた法人等
2.	紺綬褒章	活動資金として500万円以上を納められた個人 活動資金として 1,000 万円以上を納められた法人等



▲紺綬褒章

10 奈良県支部有功会（令和3年度会員数：425人、昭和41年11月結成）

支部有功会は、日本赤十字社の金色有功章を受章された方々が赤十字思想の普及とその活動に寄与するとともに、会員相互の親睦を図ることを目的に結成した団体として活動しています。

また、7地区（奈良市都祁、奈良市月ヶ瀬地区、大和郡山市、王寺町、宇陀地区、橿原市、生駒市）においては、地区有功会が組織され、会員の増強と赤十字事業を通じた地域活動に貢献しています。

- ① 総会(講演会も同時開催)を開催します。(4月)
- ② 全国赤十字大会へ参会します。(5月：東京都 明治神宮会館)
- ③ 赤十字運動や献血啓発の支援広告を掲載します。(随時)
- ④ 赤十字活動資金の協力、災害等の義(救)援金に協力します。
- ⑤ 日赤紺綬・有功会会長協議会総会に参加します。(10月：群馬県高崎市)
- ⑥ 赤十字看護専門学生への一部費用を助成します。
- ⑦ 本社の国際活動資金に協力します。
- ⑧ 地区有功会において赤十字事業の発展に尽くします。
- ⑨ 奈良県赤十字大会を支援します。
- ⑩ その他支部事業の助言や提言などを行います。



▲有功会総会



▲有功会連絡協議会



▲地区有功会総会（大和郡山市）

IV. 令和 3 年度 一般会計予算

1 令和 3 年度 一般会計予算

(歳 入)					単位：千円
区 分		令和3年度	令和2年度	増減	付 記
		予算額	予算額		
1	社資収入	167,000	167,000	0	地区分区(市町村)及び支部を通じた個人、法人からの会費、寄付金
2	補助金及び 交付金収入	1,186	3,767	△2,581	本社からの交付金
3	繰入金収入	6,100	1,100	5,000	災害等資金積立金、国際救護活動資金繰入
4	雑収入	4,714	6,133	△1,419	講師派遣負担金収入、講習用教材費収入等
5	前年度繰越金	25,000	20,000	5,000	前年度繰越金
歳入合計		204,000	198,000	6,000	
(歳 出)					単位：千円
区 分		令和3年度	令和2年度	増減	付 記
		予算額	予算額		
1	災害救護事業費	35,000	34,360	640	災害に備えた救護装備費、救助費、救護訓練費、 救援物資整備費、救護看護師養成費
2	社会活動費	37,300	37,430	△130	救急法等講習普及費、奉仕団及び青少年赤十字 育成費、血液事業普及費
3	国際活動費	1,100	1,100	0	バングラデシュ保健医療支援事業
4	指定事業 地方振興費	5,000	5,000	0	救護資機材整備費、救援物資整備費
5	地区分区 交付金支出	16,390	16,390	0	地区分区(市町村)における赤十字活動費
6	社業振興費	49,700	34,170	15,530	赤十字思想の普及啓発費、活動資金募集費、 全国赤十字大会参加費、奈良県赤十字大会開催経費
7	積立金支出	6,000	15,000	△9,000	退職給与資金特別会計積立金
8	総務管理費	26,000	26,990	△990	支部事業管理運営費
9	資産取得及び 資産管理費	1,450	1,232	218	施設、備品管理費
10	本社送納金支出	23,850	23,850	0	本社における国内、国際活動費
11	予備費	2,210	2,478	△268	その他
歳出合計		204,000	198,000	6,000	

(注)支部評議員会の運営

- (i) 支部評議員会は、日本赤十字社定款第71条などの規定に基づき、定数45名の評議員が、支部長の諮問に答えるほか奈良県支部の役員選出及び支部の重要な業務について、審議にあたります。(開催時期 2月、6月)
- (ii) 監査委員会は、支部評議員会で選出された支部監査員2名で、奈良県支部の一般会計決算の監査を行います。(開催時期 5月)

2 令和3年度 活動資金募集お願い額一覧表

							単位：円
区分		令和3年度	令和2年度	区分		令和3年度	令和2年度
奈良市地区	奈良市地区	40,035,000	40,035,000	高市郡	高取町分区	724,000	724,000
	大和高田市地区	7,877,000	7,877,000		明日香村分区	609,000	609,000
	大和郡山市地区	9,749,000	9,749,000		計	1,333,000	1,333,000
天理市地区	天理市地区	8,277,000	8,277,000	北葛城郡	上牧町分区	2,388,000	2,388,000
	橿原市地区	12,603,000	12,603,000		王寺町分区	2,427,000	2,427,000
	桜井市地区	6,146,000	6,146,000		広陵町分区	2,647,000	2,647,000
五條市地区	五條市地区	3,871,000	3,871,000		河合町分区	2,007,000	2,007,000
	御所市地区	3,509,000	3,509,000		計	9,469,000	9,469,000
	生駒市地区	11,390,000	11,390,000		吉野町分区	1,114,000	1,114,000
香芝市地区	香芝市地区	5,690,000	5,690,000		大淀町分区	1,972,000	1,972,000
	葛城市地区	3,197,000	3,197,000		下市町分区	822,000	822,000
	宇陀市地区	3,659,000	3,659,000		黒滝村分区	128,000	128,000
地区扱計		116,003,000	116,003,000	吉野郡	天川村分区	239,000	239,000
山辺郡	山添村分区	401,000	401,000		下北山村分区	197,000	197,000
	平群町分区	1,927,000	1,927,000		上北山村分区	112,000	112,000
生駒郡	三郷町分区	2,558,000	2,558,000		川上村分区	302,000	302,000
	斑鳩町分区	2,861,000	2,861,000		東吉野村分区	341,000	341,000
	安堵町分区	881,000	881,000		計	5,227,000	5,227,000
計		8,227,000	8,227,000	吉野西	野迫川村分区	84,000	84,000
磯城郡	川西町分区	900,000	900,000		十津川村分区	601,000	601,000
	三宅町分区	777,000	777,000		計	685,000	685,000
	田原本町分区	3,032,000	3,032,000	分区扱計		30,539,000	30,539,000
計		4,709,000	4,709,000	地区分区扱計※		146,000,000	146,000,000
宇陀郡	曽爾村分区	216,000	216,000	支部扱計		10,000,000	10,000,000
	御杖村分区	272,000	272,000	(一般社資合計)		156,000,000	156,000,000
	計	488,000	488,000	(法人社資合計)		11,000,000	11,000,000
				社資合計		167,000,000	167,000,000

※ 「地区分区扱計」146,542,000 円の内、542,000 円は切り捨てて「支部扱計」に含んでいます。